



パワード・スピーカー / パワード・サブウーファー  
**PRX700 Series**  
PRX710, PRX712, PRX715, PRX725, PRX735  
PRX715XLF, PRX718XLF

---

## 取扱説明書

お買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。  
この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも見られるところに保管してください。

## ■ 安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の方への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。



**警告**

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



**注意**

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。



**警告**

- スピーカーを濡らさないでください。火災や感電の原因になります。雨天、降雪中は濡れないように設置してください。
- 必ずAC100V 50Hz/60Hzの電源で使用してください。これ以外の電源で使用すると火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源ケーブルを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となり危険です。また、同梱された電源ケーブルは、他の機器には使用しないでください。
- 電源ケーブルの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して火災や感電の原因となります。
- 濡れた手で、電源ケーブルや他の機器との接続ケーブルの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。
- 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
- 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常が起きたときは、ただちに電源を外し修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。



**注意**

- 開梱や持ち運びの際には、重量を確認し、けがをしないよう注意してください。
- 必要な電流容量を安全に供給できるよう、適切な電源回路を用意してください。
- 傾いたところなど不安定な場所や、磨かれた床など滑りやすい面に置かないでください。音の出力エネルギーによってスピーカーが動いてしまうおそれがあり、落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。水平な場所に置き、ゴムマットの上に置くなどの対処をしてください。
- 以下のような場所には設置しないでください。火災や故障の原因となります。
  - ・直射日光のあたる場所
  - ・極度の低温または高温の場所
  - ・湿気の多い場所
  - ・ほこりの多い場所
  - ・振動の多い場所
- スピーカースタンドに取付けたり、吊り下げて使用する場合は、この取扱説明書をよくお読みになり、安全に設置してください。
- 通気性の良い場所に設置し、機器の吸気口や排気口は絶対に塞がないでください。熱がこもって、火災や故障の原因となります。
- 機器の移動は、電源ケーブルや他の機器との接続ケーブルを全て外した上で行ってください。けがやケーブル破損の原因となります。
- 他の機器との接続は、機器の電源を全て切ってから行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となります。
- 過大入力を加えないでください。また、長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
- 大きな音量に連続してさらされると、聴覚障害の原因となります。音量の設定は慎重に行ってください。
- 長時間使用しないときは、電源ケーブルを取り外してください。火災や感電、故障の原因となります。

## ■ 目次

安全上のご注意.....	2
目次.....	3
主な特長.....	3
梱包内容の確認.....	3
スピーカーの設置（安全にお使いいただくために）.....	4
・ スピーカースタンド、またはポールを使用して設置する場合.....	4
・ サスペンション・ポイントを使用して天井から吊り下げる場合.....	4
内蔵パワーアンプについて.....	5
・ 安定した電源の供給.....	5
・ 使用温度.....	5
電源を入れる.....	5
コントロール部の名称と機能.....	6
・ フルレンジ・システム [PRX710, PRX712, PRX715, PRX725, PRX735].....	6
・ サブウーファー [PRX715XLF, PRX718XLF].....	8
故障かな?と思ったら（トラブルシューティング）.....	10
仕様.....	11

## ■ 主な特長

PRX700 Series は、クラスを超える高品位な音質と様々なシーンで活躍する多彩な機能、クラス D アンプによるパワフルなサウンドを備えており、プロフェッショナル用途の仮設 PA に最適です。

- ・ 高域には 1.5 インチ環状ポリマー製ダイヤフラムのコンプレッション・ドライバーを採用。原音を色付けなく出力。
- ・ 低域には独自のディファレンシャルドライブ技術を投入 (PRX710 を除く)。放熱に優れ、高い耐入力を獲得。
- ・ A/D 変換部には、dbx の Type IV リミッター回路を搭載し、ダイナミックレンジを最大化。
- ・ 2 系統の信号 (CH1/CH2) を入力可能。チャンネルごとに XLR/標準フォーンの複合型端子と RCA 端子（フルレンジ・システムのみ）を装備。
- ・ フルレンジ・システムにはマイク/ラインレベルの切り替えスイッチ（CH1 のみ）や音質を補正する EQ スイッチを、サブウーファーには極性を反転する POLARITY スイッチを搭載。
- ・ フルレンジ・システムからの出力信号は「CH1 のみ」「CH2 のみ」「CH1 と CH2 のミックス」から選択可能。他の音響機器に信号を出力するための THRU 出力端子も装備。THRU 出力も「CH1 のみ」「CH2 のみ」「CH1 と CH2 のミックス」から選択可能。
- ・ サブウーファーの THRU 出力はハイパス・フィルターを適用可能。
- ・ 全モデルに高効率なクラス D アンプを搭載。
- ・ 3 分以上入力信号を検知しないと、自動的にスタンバイモードに切り替わるパワーセーブ機能を搭載。

## ■ 梱包内容の確認

パッケージに次の物が入っていることを確認してください。

- ・ 本体
- ・ 電源ケーブル
- ・ 英文取扱説明書、和文取扱説明書（本書）
- ・ 保証書

## ■ スピーカーの設置（安全にお使いいただくために）

### ▶ スピーカースタンド、またはポールを使用して設置する場合

PRX710、PRX712、PRX715は、φ 36mmのポールソケットを2個（PRX710は1個）装備し、スピーカースタンドまたはサブウーファー（PRX715XLF、PRX718XLF）をベースにポールを使用して設置することが可能です。設置の際は、以下の注意事項を必ず守ってください。

- スピーカーの重量を支えられるスタンドまたはポールを使用してください。
- スタンドやサブウーファーは、平らで安定したところに設置してください。スタンドの脚は完全に開いて使用してください。
- スタンドやケーブルは演者や制作スタッフ、観客がひっかかないよう配置してください。
- スタンドやポールは使用前にチェックし、摩耗、破損、または部品の欠落が見つかった場合は使用しないでください。
- 1台のスピーカー用に設計されたスタンドまたはポールに複数のPRX700シリーズ・スピーカーを設置しないでください。
- 野外で使用するときは、風でスタンドが倒れないように注意してください。必要に応じて、スタンドの開脚部に砂袋をのせるなど、安定性を高めるための対策をしてください。
- スピーカーに垂れ幕などを取付けしないでください。転倒の原因となります。
- スピーカーの重量を1人で確実に支えられる場合を除き、スピーカースタンドまたはポールへの設置作業は2人1組で行ってください。
- サブウーファーに設置するポールの荷重は、35kg以下にしてください。

### ▶ サスペンション・ポイントを使用して天井から吊り下げる場合

#### 警告

- スピーカーを吊り下げる場合は、安全なリギングに関する研修を積んだ適切な作業員が行ってください。安全が確保できていない状況での作業は、重大な傷害と機器の損失につながります。
- この取扱説明書をよく読んで理解した上で、安全に吊り下げてください。保持装置への取付けは資格のある専門家にご相談ください。

#### 取付金具

天井からの吊り下げには、専用の金具を使用してください。5：1の安全率でM10サスペンション・ポイントを利用した場合の耐荷重は、2点吊り（均等荷重）で最大213kgです。

M10サスペンション・ポイントを利用して固定設備として設置する場合、JBL PROFESSIONALの229 - 00009 - 01（M10 × 35mm鍛造アイボルト（ワッシャー付き）が3個含まれたキット）を使用してください。

#### 注意

- 吊り下げには必ず2点以上のサスペンション・ポイントを使用し、それぞれの荷重を均等にしてください。
- プルバック・ポイント（背面のポイント）は、スピーカーの傾斜角度を調整するためのプルバック専用です。サスペンション・ポイントとして使用できるのは、上面および底面の取付けポイントのみです。

### 構造物への取付け

頭上への設置を行う前に、構造物への取付け位置および方法について、資格のある専門技術者の承認を得てください。

金具の取付けは、専門技術者が指定した方法で実施しなければなりません。安全なリギング方法がわからない場合は、リギング金具および業界慣行に精通した有資格者に相談してください。誤った方法で施工すると、損傷、傷害、または死亡事故の原因となります。

### 検査と保守

スピーカーを吊り下げる前に、必要となる部品に亀裂や歪み、腐食がないか点検してください。また、設置の強度や安全を低下させる損傷や、紛失した部品がないかどうか調べてください。

正常な機能を確保するために定期検査と定期保守が必要です。スピーカーおよび吊り下げ金具は、年 1 回以上および大地震の発生後なるべく速やかに疲労検査を実施してください。全ての角および荷重負荷面を目視検査し、亀裂、冠水、剥離など、エンクロージャーの強度低下の原因となる異常の兆候がないかを確認してください。また、アイボルトが緩んでいないかを確認してください。

## ▶ 内蔵パワーアンプについて

### 安定した電源の供給

最大限の性能を得るためには、安定した電源供給が必要です。電源の供給が不安定な場合、低域再生性能に影響します。また、電圧が急激に降下すると、スピーカーを保護するために自動的に出力をミュートします（電圧が回復すればミュートは解除されます）。複数のスピーカーを同じコンセントに接続したり、ケーブルを長く引き回したりすると、スピーカーへの電源供給に影響することがあります。

### 使用温度

内蔵のパワーアンプは、高効率な設計が施されています。発熱を最小に抑えますが、まれに過熱し、保護のために自動的に動作を停止することがあります。温度が使用温度の範囲内に戻れば再起動します。環境温度が非常に高い場合や、背面に直射日光が当たっている場合などに過熱状態になることがあります。設置は冷却と遮光に留意して行ってください。

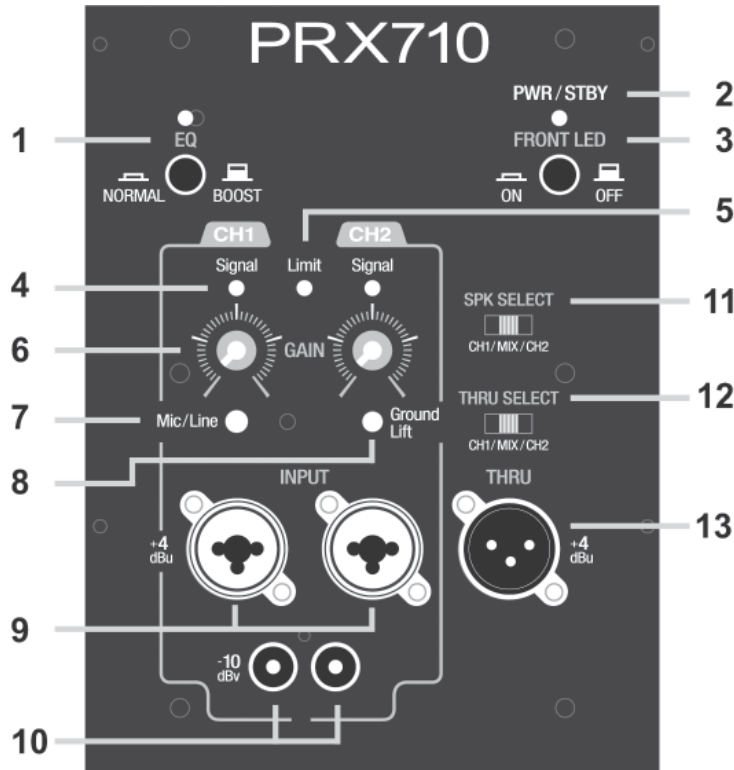
## ▶ 電源を入れる

電源スイッチは、背面パネルに装備しています。

本体の電源を ON にする時は、PA システム全体の中で最後に行い、電源を OFF にする時は、PA システム全体の中で最初に行ってください。複数のスピーカーをダイジーチェーン接続している場合は、末端のスピーカーから電源を OFF にしてください。

## ■ コントロール部の名称と機能

### ▶ フルレンジ・システム [PRX710, PRX712, PRX715, PRX725, PRX735]



1. EQ スイッチ (NORMAL/BOOST または MAIN/MONITOR) と EQ インジケータ  
音声出力に適用するイコライザーの種類を選択します。使用状況に合わせて選択してください。

#### PRX710, PRX725, PRX735 … NORMAL/BOOST 切り替え

EQ スイッチ	特性	EQ インジケータ
NORMAL	フラットな周波数特性が得られます。音楽の正確な再生やスピーチ拡声の場合に選択してください。	緑色に点灯
BOOST	低域と高域を少し強調した特性に補正します。録音した音楽を小音量で再生する時など、低域と高域の成分を足したい場合に選択してください。	黄色に点灯

#### PRX712, PRX715 … MAIN/MONITOR 切り替え

EQ スイッチ	用途	EQ インジケータ
MAIN	メインスピーカーとして使用する際に選択してください。	緑色に点灯
MONITOR	ステージモニターとして使用する際に選択してください。	黄色に点灯

## 2. PWR/STBY インジケータ

スピーカーの動作状態を表示します。

- ・ 青色に点灯 … 電源が ON で、通常動作時
- ・ 赤色に点灯 … スタンバイモード時

※ 3 分以上入力信号を検知しないと、待機電力を最小限にするスタンバイモードに切り替わります。入力信号を検知すると、通常の稼働状態に復帰します。

### 3. FRONT LED スイッチ

前面のLEDをON/OFFします。ONにするとスピーカーの動作状態を前面でも確認できます。LEDは通常稼働時は青色、スタンバイモード時は赤色に点灯します(「2. PWR/STBY インジケータ」を参照)。

### 4. Signal インジケータ

入力信号を検知すると、緑色に点灯します。各チャンネルに装備しています。

### 5. Limit インジケータ

音声出力がピークに達し、DSP リミッター回路が作動すると、黄色に点灯します。常時点灯する場合は、ゲインを下げてください。

### 6. GAIN つまみ

各チャンネルのゲインを調整します。

### 7. Mic/Line スイッチと Mic インジケータ

CH1の入力感度を設定します。スイッチを押しこむとマイクレベル、もう一度押しとラインレベルです。マイクレベルに設定している時は右側のMicインジケータが赤色に点灯します。マイクロホンや楽器などのマイクレベルの機器を接続する場合は、Mic/Lineスイッチで入力感度をMicに設定してください。スイッチはピンなどの先の細いもので押してください。

※ Mic/LineスイッチはCH1のみ搭載しています。

### 8. Ground Lift スイッチ

グラウンドリフトのON/OFFをします。ONにするとCH2のグラウンド端子を切り離し、他の音響機器との接続で発生するグラウンドループによるハムまたはバズノイズ(「ブーン」や「ジー」などの低域で発生するノイズ)を低減できます。スイッチはピンなどの先の細いもので押してください。

※ Ground LiftスイッチはCH2のみ搭載しています。

### 9. 入力端子(XLR/標準フォーンの複合型)

音源を接続する端子です。CH1はMic/Lineの入力感度の設定が可能です。マイクロホンや楽器などのマイクレベルの機器を接続する場合は、Mic/Lineスイッチで入力感度をMicに設定してください。CH2は常にラインレベルです。

XLR、TRS 標準フォーン(メス、バランス)。

※ファンタム電源は供給できません。

### 10. 入力端子(RCA)

音源を接続する端子です。-10dBvの入力に対応しており、CDプレイヤーなどのコンシューマー機器を接続できます。

RCA(メス、アンバランス)。

#### 備考

- XLR/標準フォーンの複合端子とRCA端子は同時に使用できませんが、それぞれの音量バランスは調整できません。

## 11. SPK SELECT スイッチ

スピーカーから出力する信号を、CH1、CH2、MIX から選択します。CH1 または CH2 を選択すると、それぞれの CH を、MIX を選択すると、CH1 と CH2 をミックスした信号を出力します。

## 12. THRU SELECT スイッチ

THRU 出力端子から出力する信号を、CH1、CH2、MIX から選択します。CH1 または CH2 を選択すると、それぞれのチャンネルを、MIX を選択すると、CH1 と CH2 を 50:50 の割合で出力します。

※ THRU 出力端子は、ゲイン調整前の信号を出力します。GAIN つまみの設定は THRU 出力には反映されません。

## 13. THRU 出力端子

音源からの入力信号を出力する端子です。出力信号は THRU SELECT スイッチで選択してください。この出力は、他の音響機器とデジチエイン接続する際の出力として使用できます。

XLR(オス、バランス)。

## ▶ サブウーファー [PRX715XLF, PRX718XLF]

### 1. POLARITY 設定 (0° /180°)

サブウーファースの極性を 0° または 180° から選択します。「0°」は変更なし、「180°」は逆極性です。極性を正しく設定すると、サブウーファーとフルレンジ・システムが自然につながり、聴感上の低域特性が向上します。低域が弱く感じられる場合は、逆極性を試してください。

### 2. PASS THRU スイッチ (HI PASS/FULL RANGE) と PASS THRU インジケーター

THRU 出力に適用するハイパス・フィルターの ON/OFF をします。

#### HI PASS(ハイパス・フィルター ON)

THRU 出力にハイパス・フィルターを適用します。フルレンジ・システムと接続する時は HI PASS に設定してください。インジケーターは緑色に点灯します。

クロスオーバー周波数：120Hz、24dB/Oct

#### FULL RANGE(ハイパス・フィルター OFF)

音源からの入力信号をそのまま出力します。追加のサブウーファースをデジチエイン接続する時は FULL RANGE に設定してください。インジケーターは黄色に点灯します。

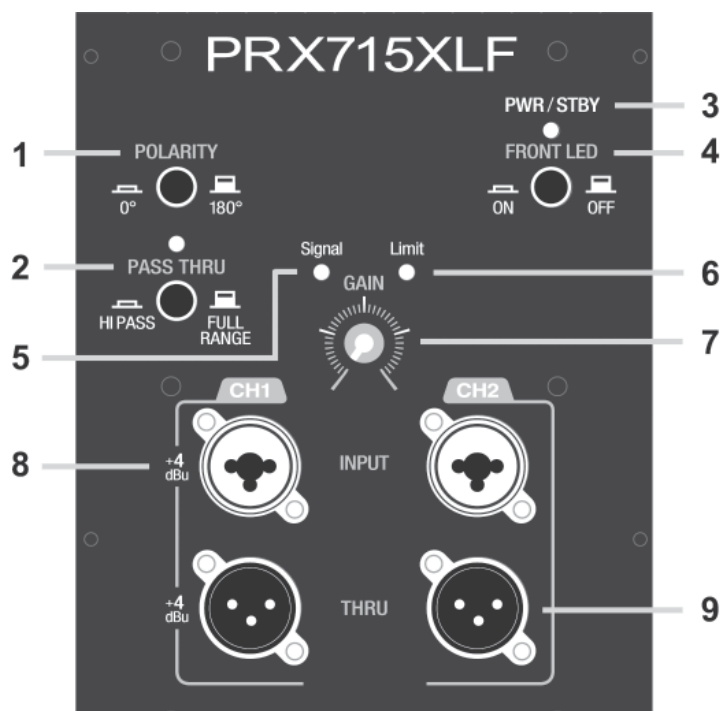
### 3. PWR/STBY インジケーター

スピーカーの動作状態を表示します。

- 青色に点灯 … 電源が ON で、通常動作時
- 赤色に点灯 … スタンバイモード時

※ 3 分以上入力信号を検知しないと、待機電力を最小限にするスタンバイモードに切り替わります。入力信号を検知すると、通常の稼働状態に復帰します。





#### 4. FRONT LED スイッチ

前面の LED を ON/OFF します。ON にするとスピーカーの動作状態を前面でも確認できます。LED は通常稼働時は青色、スタンバイモード時は赤色に点灯します（「3. PWR/STBY インジケーター」を参照）。

#### 5. Signal インジケーター

CH1 または CH2 が入力信号を検知すると、緑色に点灯します。

#### 6. Limit インジケーター

音声出力がピークに達し、DSP リミッター回路が作動すると、黄色に点灯します。常時点灯する場合は、ゲインを下げてください。

#### 7. GAIN つまみ

CH1 と CH2 をミックスした信号のゲインを調整します。

#### 8. 入力端子 (XLR/ 標準フォーンの複合型)

入力ソースを接続する端子です。

XLR、標準フォーン (メス、バランス)。

#### 9. THRU 出力端子

音源からの入力信号を出力する端子です。フルレンジ・システムとの接続、または他の音響機器と接続する際の出力として使用できます。PASS THRU スイッチの設定に応じて、HI PASS または FULL RANGE の信号を出力します。

XLR (オス、バランス)。

※ THRU 出力端子は、ゲイン調整前の信号を出力します。GAIN つまみの設定は THRU 出力には反映されません。

## ■ 故障かな？と思ったら（トラブルシューティング）

症状	考えられる原因	対処方法
音が出ない	電源が供給されていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>電源ケーブルの配線と通電状態を確認します。電源を ON にした時に PWR/STBY インジケータが青色に点灯することを確認します。</li> <li>電源ケーブルの両端を接続し直します。</li> <li>正常な電源ケーブルと交換します。</li> </ul>
	電源ケーブルの破損または正しく接続されていない	
電源が供給されているのに音が出ない	ヒューズ切れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>修理をご依頼ください。</li> </ul>
	音源（ミキサー、楽器など）から信号が出ていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>音源を確認してください。</li> </ul>
スピーカーの電源を ON にしても音が出ない	ケーブルまたはコネクタの不良	<ul style="list-style-type: none"> <li>音源（ミキサーなど）の VU メータを確認します。</li> <li>CD/MP3 プレイヤーが再生されているかを確認します。</li> <li>ヘッドホンを使用して、楽器から信号が出力されていることを確認します。</li> <li>ケーブルを外し、再度接続し直します。</li> <li>異常が疑われるケーブルを正常なケーブルに交換します。</li> </ul>
マイクロホンを直接接続して、入力感度を Mic に設定しても音が出ない	コンデンサー・マイクロホンを使用している	<ul style="list-style-type: none"> <li>PRX700 Series は、ファンタム電源を供給しません。ダイナミック・マイクロホンを使用するか、外部ファンタム電源を使用してください。</li> </ul>
	マイクロホン・ケーブルの不良	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケーブルを交換します。</li> </ul>
音が極端に大きく、歪む（Limit インジケータが連続して点灯する）	スピーカーの能力を超えた過大入力	<ul style="list-style-type: none"> <li>音源の出力レベルを下げます。</li> <li>スピーカーの GAIN つまみでゲインを下げます。</li> </ul>
中音量でも音が歪む（Limit インジケータは消灯）	ミキサーなどからの音源信号のクリップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>各機器の取扱説明書を確認し、必要に応じて入力感度（ゲイン）を調整します。</li> <li>信号経路のゲイン構造を確認します。</li> </ul>
ノイズやヒス※が出る ※「サー」というような高域で発生するノイズ	接続機器や入力信号にノイズが多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピーカーに接続された機器を 1 つずつ取り外します。</li> <li>ノイズがなくなった場合、その接続機器の信号または接続ケーブルに問題があります。</li> </ul>
ミキサーのレベル調整時にハムまたはバズノイズ※が増減する ※「ブーン」や「ジー」などの低域で発生するノイズ	不適切な電源接地またはミキサーの入力に接続された機器の異常	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャンネルを 1 つずつ切断またはミュートして、問題のある機器を特定します。トラブルシューティングについては、異常のある機器の取扱説明書を参照してください。</li> </ul>
	接続機器とケーブルの異常	<ul style="list-style-type: none"> <li>異常が疑われるケーブルを正常なケーブルに交換します。</li> </ul>
ハムまたはバズノイズが発生する	AC グラウンドの不良、グラウンドループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ground Lift スイッチを ON にし、CH2 のグラウンド端子を切り離します。</li> <li>音声ケーブルを電源ケーブルや照明ケーブルから離してください。</li> </ul>
	アンバランス・ケーブルが長すぎる	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミキサーのバランス出力（装備されている場合）を使用して、スピーカーに接続します。</li> <li>ダイレクト・ボックス (DI) を使用して、アンバランス出力をバランス出力に変換します。</li> </ul>
	PA システムを構成している機器同士の入出力の感度が異なる	<ul style="list-style-type: none"> <li>各機器の取扱説明書を確認し、必要に応じて入力感度（ゲイン）を調整します。</li> </ul>
マイクロホンの音量を上げるとハウリングが起る	マイクロホンがスピーカーに向いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピーカーをマイクロホンの指向範囲に入らない位置に移動します。</li> </ul>
	イコライザー設定が不適切	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミキサーの EQ あるいは外部 EQ をフィードバックの周波数に設定してカットします。</li> </ul>
	ゲインが高すぎる	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミキサーのゲインを下げ、マイクロホンを收音対象に近づけます。</li> </ul>
音楽を再生すると低域が出すぎる	再生する音楽に低域が過剰に含まれている	<ul style="list-style-type: none"> <li>EQ スイッチを「NORMAL」または「MONITOR」に設定します。</li> </ul>

## ■ 仕様

		PRX710	PRX712	PRX715
形式		2-Way パワード・フルレンジ	2-Way パワード・フルレンジ	2-Way パワード・フルレンジ
周波数レンジ (-10dB)		50Hz ~ 19.6kHz (EQ:NORMAL 時)	44.8Hz ~ 19.6kHz (EQ:MAIN 時)	42.9Hz ~ 19.5kHz (EQ:MAIN 時)
指向角度 (水平×垂直)		100° × 60°	90° × 50°	90° × 50°
最大音圧レベル (1m)		133dB SPL (ピーク)	135dB SPL (ピーク)	136dB SPL (ピーク)
ドライバー 構成	LF	250mm(M110 - 4)	300mm(272G)	380mm(275G)
	HF	38mm(2408H - 2)	38mm(2408H - 2)	38mm(2408H - 2)
クロスオーバー周波数		1.9kHz	1.8kHz	1.7kHz
パワーアンプ		Class D	Class D	Class D
入力	チャンネル数	2	2	2
	端子・形式	XLR と標準フォーンジャック (3P) 対応の複合型端子 × 2、RCA × 2	XLR と標準フォーンジャック (3P) 対応の複合型端子 × 2、RCA × 2	XLR と標準フォーンジャック (3P) 対応の複合型端子 × 2、RCA × 2
	インピーダンス	20k Ω (バランス)、 10k Ω (アンバランス)	20k Ω (バランス)、 10k Ω (アンバランス)	20k Ω (バランス)、 10k Ω (アンバランス)
インジケータ		EQ、Limit、Mic/Line、Signal、 Power (前面、背面)	EQ、Limit、Mic/Line、Signal、 Power (前面、背面)	EQ、Limit、Mic/Line、Signal、 Power (前面、背面)
電源		AC100V、50/60Hz	AC100V、50/60Hz	AC100V、50/60Hz
消費電力 (1/8 出力時、ピンクノイズ)		55W	95W	110W
エンクロージャー		25/18mm 合板、黒、DuraFlex 仕上げ	25/18mm 合板、黒、DuraFlex 仕上げ	25/18mm 合板、黒、DuraFlex 仕上げ
寸法 (W × H × D)		335 × 515 × 323mm	385 × 629 × 343mm	446 × 710 × 358mm
質量		16kg	19kg	21kg

		PRX725	PRX735
形式		2-Way パワード・フルレンジ	3-Way パワード・フルレンジ
周波数レンジ (-10dB)		42Hz ~ 18.5kHz(EQ:NORMAL 時)	35Hz ~ 20kHz(EQ:NORMAL 時)
指向角度 (水平×垂直)		90° × 50°	90° × 50°
最大音圧レベル (1m)		139dB SPL (ピーク)	136dB SPL (ピーク)
ドライバー 構成	LF	380mm(275G) × 2	380mm(275G)
	MF	—	165mm(196H)
	HF	38mm(2408H - 2)	38mm(2408H - 2)
クロスオーバー周波数		2.4kHz	480Hz、2.0kHz
パワーアンプ		Class D	Class D
入力	チャンネル数	2	2
	端子・形式	XLR と標準フォーンジャック (3P) 対応の 複合型端子 × 2、RCA × 2	XLR と標準フォーンジャック (3P) 対応の 複合型端子 × 2、RCA × 2
	インピーダンス	20k Ω (バランス)、10k Ω (アンバランス)	20k Ω (バランス)、10k Ω (アンバランス)
インジケータ		EQ、Limit、Mic/Line、Signal、Power (前面、背面)	EQ、Limit、Mic/Line、Signal、Power (前面、背面)
電源		AC100V、50/60Hz	AC100V、50/60Hz
消費電力 (1/8 出力時、ピンクノイズ)		100W	95W
エンクロージャー		25/18mm 合板、黒、DuraFlex 仕上げ	25/18mm 合板、黒、DuraFlex 仕上げ
寸法 (W × H × D)		445 × 1071 × 558mm	445 × 950 × 558mm
質量		37kg	32kg

		PRX715XLF	PRX718XLF
形式		パワード・サブウーファー	パワード・サブウーファー
周波数レンジ ( - 10dB)		37 ~ 113Hz	30 ~ 103Hz
最大音圧レベル (1m)		131dB SPL(ピーク)	134dB SPL(ピーク)
ドライバー構成		380mm(2275H)	460mm(2278G)
クロスオーバー		48dB/Oct	48dB/Oct
クロスオーバー周波数		90Hz	90Hz
パワーアンプ		Class D	Class D
入力	チャンネル数	2	2
	端子・形式	XLR と標準フォーンジャック (3P) 対応の 複合型端子× 2	XLR と標準フォーンジャック (3P) 対応の 複合型端子× 2
	インピーダンス	20k Ω (バランス)	20k Ω (バランス)
インジケータ		PASS THRU, Limit, Signal, Power( 前面、背面)	PASS THRU, Limit, Signal, Power( 前面、背面)
電源		AC100V、50/60Hz	AC100V、50/60Hz
消費電力 (1/8 出力時)		70W (63Hz)	80W (55Hz)
エンクロージャー		25/18mm 合板、黒、DuraFlex 仕上げ	25/18mm 合板、黒、DuraFlex 仕上げ
ポールソケット		M20 ねじ込み式ソケット× 1	M20 ねじ込み式ソケット× 1
寸法 (W × H × D)		446 × 645 × 570mm	522 × 688 × 725mm
質量		26kg	38kg

この取扱説明書に記載されている商品名、会社名等は、その会社の登録商標または商標です。



<http://www.hibino.co.jp/>  
E-mail: [proaudiosales@hibino.co.jp](mailto:proaudiosales@hibino.co.jp)

ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部  
〒108-0075 東京都港区港南3-5-12  
TEL: 03-5783-3110 FAX: 03-5783-3111  
札幌オフィス  
〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三條1-1-20  
TEL: 011-640-6770 FAX: 011-640-6776

大阪ブランチ  
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8  
TEL: 06-6339-3890 FAX: 06-6339-3891  
名古屋オフィス  
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26  
TEL: 052-589-2712 FAX: 052-589-2719

福岡ブランチ  
〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6  
TEL: 092-611-5500 FAX: 092-611-5509